

# NCS

自然・環境・人

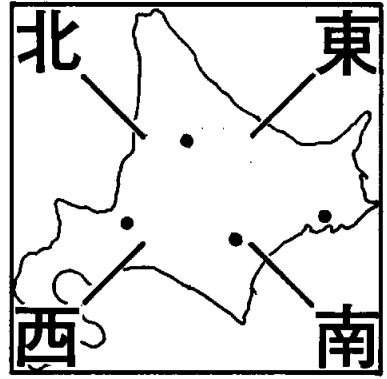
北海道自然保護協会会報  
Nature Conservation Society of Hokkaido

1984年2月



冬の十勝

フォトグラファー：青木 恵一



## 自然保護とは！

乳井 幸教



自然保護というと、なにか一部の植物愛好家や、野鳥愛好家の感情的な発想と考えている人もいるが、とんでもない誤りである。「自然保護」と言う言葉のもつひびきが、どうも人間が自然というか、弱いものを守ってあげるのだというように捉えられ勝ちであるが、これは万物の霊長と自ら称する人間のあつかましさといわざるをえない。

産業技術の発展に伴い、その便利さの恩恵にあずかっている反面、われわれの生活環境である大気、水、大地が汚され、生命存続の基盤がおかされつつあることに目を向けるとともに、総ての人間が他のあらゆる生物と何ら変らない生命体であるという基本原則を認識しなければならぬ。そこから自然保護の考えを出発させなければならぬと思う。すなわち自然界の大きなサイクルの中のどの位置に人間が存在し、生物としてどのような役割を果しているのか、また、他のどのような生物と、どのようにかかわって恵みを受けているのか、謙虚に考察する必要がある。そこからわれわれ人間は他のあらゆる生物との共存なくしてひと時も生きられないことがわかる筈である。単に食物としての係わりだけでなく、より重要で密接な数多くのつながりの中でわれわれは生きているのである。すなわち、自然保護運動とは、これから生きていくわれわれ人間のための「叫び」であり「行動」であると捉えるべきであろう。

地球上に生物が出現して以来、急速に繁栄した総ての生物が辿った道は、自分達の生活によって造り変えた自然環境についてゆけず、絶滅または絶滅に瀕してきたと言う厳厲な事実である。ひとり人類だけが栄華を満喫し、なお安泰であるという保証はない。

このような認識に立って、道南における環境問題の現状と将来に懸念される問題を見わたしてみると、大変な問題が山積しているといえる。その二、三を紹介すると、北電泊原発建設や知内火災建設、奥尻核燃料廃棄物処理施設誘致、さらに

函館、上磯、七飯、大野の一市三町にまたがる函館湾流域下水道建設に伴う大気海洋の汚染、水温上昇などの問題、また横津岳北斜面スキー場建設計画や、計画が噂されている大沼、駒ヶ岳大規模観光開発等に伴う緑の破壊、土砂の流出等々、枚挙にいとまがないほどである。

私たちは、このような環境問題の一つひとつを確実にチェックし、検討を加え、現在および将来にかかわる影響や危険性について警告を発していきたいと真剣に考えている。



## 釧路湿原近況

新庄 久志



新年をむかえた釧路湿原は、例年よりもさらに雪が少ないのですが、それでも阿寒おろしの寒風で湖沼や小川はすっかり凍っています。うつつらと積った雪上にはキタキツネやエゾユキウサギがライトブルーの足あとを残し、時おりオオハクチョウの群れも羽根を休めています。数十cmにもなった氷に純白の水泡がとじこめられ、ガラスのようにすき透った河川の氷上に立つと、足もとに流水にユラユラとゆれるバイカモやアツモをすかして見ることもできます。この季節になると、夏にはヨシやスゲにかくれていた小さな池沼や小川が浮きでできますし、水温が6〜11℃もある湧水池の確認や湿

いずれにせよ、ひとたび破壊された自然の復元の難しさを考える時、将来に悔いを残さないためにも、自然の摂理にかなうた謙虚な姿勢で慎重な自然利用を心がけたいものである。

(南北海道自然保護協会理事、函館植物研究会幹事長、大野町立島川小学校教諭)

原内のハンノキ調査にクロスカントリー  
スキーが活躍します。

釧路湿原をめぐる動きは、現在、湿原の保全に関する環境庁の緊急調査が当協会によって実施されており、森林文化協会は「21世紀に残したい日本の自然一〇〇選」の一つに釧路湿原を加えて、一九八四年、一九九三年、二〇〇〇年と長いスパンの定点観測を開始しました。また、郷土の貴重な自然をより広範な人々に知ってもらおうと「釧路湿原展望台」が一月二三日にオープンします。菓づくりをはじめたアオサギ、芽をふきはじめてヤチボウズ、水面にゆれるミズバショウなど、春をむかえた湿原のジオラマが展示され、展望される湿原の四季がトライビジョンで映しだされます。昨年十月三日に開館した釧路市立博物館とユニットになって湿原情報を提供してくれます。

しかし、他方では湿原の紹介のみが先行したために、「壊れやすい自然」という点が忘れられ、湿原に直に触れようと、ランダムに立ち入るケースも増えてきました。特に湿原の中央を横断している釧路川右岸堤防は、仮の「遊歩道」にもなっていますから、これを利用する機会が多く、中には車を遊歩道にのり入れてスカズカ踏み込んでいます。この地域は高山植物や寒地性植物が群生するミズゴケ湿原ですから盗掘も頻繁です。写真撮影、植物、昆虫観察、採集などを目的にする事例も多く、踏みつけられた湿原は網の目の様に走る黒褐色の筋でぎざまざっています。

湿原周辺の樹林の回復、自然河川の維持など、水系の保全によって間接的破壊

ら湿原を守ることに加えて、人口が踏みつけて直接破壊するという課題についても取り組む必要が出てきているとも言えます。

(釧路市立博物館学芸員・釧路市在住)

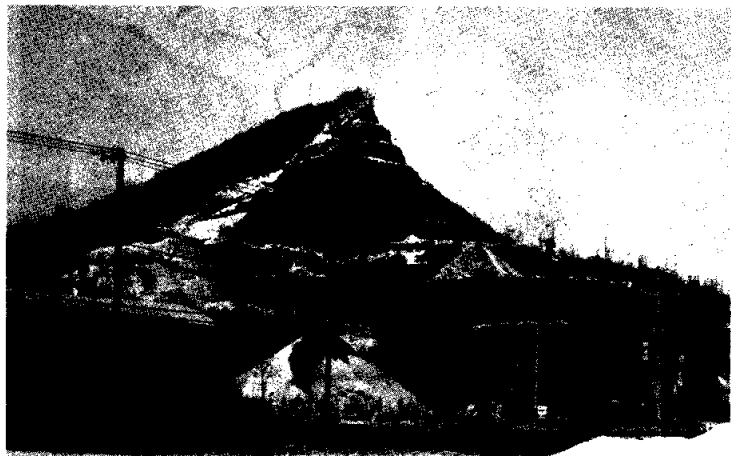
## 採石問題を通じて 自然保護運動の 難かしさを思う

紺谷 友明



十年ほど前、札幌の円山公園から盤溪まで歩いたことがある。そこから西方を見ると、木木の豊かな山が連なっていた。郊外に、こんな美しいところがあるのかと思つた。二、三年あと、その近く、福井というところに住むことにした。

ところが、その山は七か所にわたって根こそぎ削られている。砕石が必要なら、一か所から計画的に取らないで、どうしてあちこちの山を削るのか。調べてみると、ここは明治のころから個人の土地のため、業者が山を買ったり借りたりして、てんでんばらばらに採石を始めたのだ。



札幌の市街からよく見える三角山も神宮から個人に売られたため、採石が始められたことがある。この山の内臓が町から見えるようになったとき、周辺の住民やスキーヤーの団体が道や札幌市に採石の停止を求め、やつとこのことで中止になった。

私も近くの住民に呼びかけ、近くの山が無くなるのをやめさせようと思つた。近所の会社員もこれに同意していたので、ある日電話した。奥さんが出てきて、主人は函館に単身赴任しているとのこと、わけを話し、函館に電話をかけるからと

いうと、亭主が、そんな運動にひきこまれるのなら番号は教えられないと言つた。採石の山の近くの町内には採石の中止を求めた元町内会長がいた。私はその人にも会い、住民の結集すべきことを話した。元校長は、すぐ電話をして近くの町内会役員を呼んでくれたが、その人は森林の保護について話す私を、まるで謀反人でもあるかのようにみている。

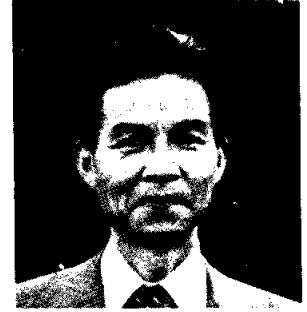
この二つの試みは、住民に自然の保護を呼びかけることの困難を私に悟らせた。水田と山しかなかった、この辺に住み出した人々は、第一次産業の衰退と、二次とくに三次産業の拡大という経済諸条件のもとに札幌に集まり、ここに住宅を求めたにすぎない。自分とその子供たちが無難に生きて行ければ、それで十分と思つているようにみえる。

私が住む前には、土砂の飛散や交通事故などの直接的被害がひどく、一九八二年には採石をやめる協定がなされていた。しかし、この協定すら業者の移転が困難ということで、住民の大部分の知らぬ間に延期された。

しばしばおそう嫌気にもかかわらず、私は私有林荒廃の原因を調べ、書いたり話したりしてきた。さらには、さかのぼれるだけさかのぼって、これらの山が私有物になる過程を調べ、森林の保全について根底的に考えたいと思つていた。最近、トヨタ財団の研究助成を受けて、このことがでることになった。この結果は広く知らしめ、住民とともにではできなかったことを社会に対して果したいと考えている。

(短大講師・札幌市在住)

# ナキウサギの思い出



三 浩 倭 文

大雪山や日高の山を歩いたことのある人は、ナキウサギの可愛い姿を見たり、鳴き声を聞いたことがあるだろう。ナキウサギはいままでもなく、日本では北海道の山の一部だけに僅かに見られ、氷河時代からの生き残り（遺存種）といわれる珍しい小動物である。

私も今から二十数年も前、大雪山で初めてナキウサギを見たとき、偶然のチャンスに恵まれ、幸運にもカメラに収めることができた。かなりピンボケの白黒写真であるが、当時は動物の生態写真もほとんどない時代だったので、パンフレッ

トに印刷されたりして、少しばかり得意だった。

私は動物学とは特に縁がないが、それ以来ナキウサギには何となく愛着を持ちつつけている。

東京でオリンピックが開かれた頃から、私は北海道の国立公園などを、視察する外国人を案内する機会に、何回か恵まれるようになった。そういうお客さんは、たいてい自然愛好家だから、いくら私のカタコト英語でも、北海道の代表的な動物の英名くらいは覚えていないと都合が悪い。



山居画家 坂本直行 画

そこで和英辞典や図鑑を調べてみた。クマガイ、シマフクロウ、エゾマツ、ナカマドなどというのは、そのものずばりでなくても、類似の英名を見つけたことができた。しかし、ナキウサギの学名は解っても、英名はどうしても見当がつかない。

そんなある時、アメリカの国立公園の写真集を見ていたら、ナキウサギそっくりの動物が写っており、それには cony と書いてある。これこそナキウサギの英名だと思い、胸をはずませながら手元にあった「三省堂カレッジクラウン英和辞典」で、cony を引いた。すると coney の項を見よ、とある。そこで coney を引くと、何と conis の項を見よ、とあるではないか。堂々めぐりである。

このような辞書の欠陥は、編集者や出版社では気がつきにくい。読者の声が大切だ、と思いつ三省堂に投書した。その後のカレッジクラウンの新版では、訂正されているはずである。

それはそれとして、やむを得ないので他の英和辞典で conis を引くと、「うさぎの毛皮、うさぎの古名」とはあるが、ナキウサギとは書いてない。

そうこうしているうちに、ある動物学者が書いた「ナキウサギ (Pica) は……」という一文が目についた。今度こそナキウサギの英名を探しあてた、と喜びいさんで英和辞典の Pica を引いた。ところが Pica は、「タイプライターの活字の大きさ」とはあるが、ナキウサギとは関係がないらしい。いろいろな辞書を調べてみると、Pica というのはカササギの学名(属名)なのである。しかし Pica がヒントとなって、ついに Pica という言葉につきあたり、こ

## アセスメント (assessment)

環境影響評価の略称。事前に評価する（特に課税のために）という英語を借りている。自然と国民の健康を守るために、建設事業の着工の前に、その建設によって自然がどう変わるか評価して大規模な自然破壊を抑制しようとするものである。北海道では1979年1月、川崎市に次いで全国2番目に環境影響評価条例が施行された。同条例適用第1号は小樽市毛無山の住宅団地開発、2号目は苫小牧東部大規模工業基地の開発事業、3号目は日高中央横断道路である。アセスメントの根幹となる国の法案は1981年4月、国会に提案されたが以後、継続審議となっている。

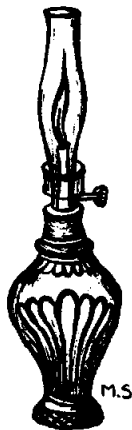
## 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)のうち、現在の大気汚染の主役となっているもので、主な発生源は自動車排ガスである。大気中のNO<sub>x</sub>は、末梢の細気管支や肺胞の障害をもたらし、気管支ぜん息や肺気腫といった呼吸器疾患が増える原因となっている。またNO<sub>2</sub>やSO<sub>2</sub>(二酸化硫黄)は、工場排煙、自動車排ガス、タバコの煙などにふくまれているベンツピレンのような発がん物質と共存することにより発がんを促進するとみられている。人口10万人当りの肺がん死亡率は1960年の8.8人から1980年の18.3人と上昇している。これは喫煙からだけでは説明ができず、大気汚染との関連が注目されている。NO<sub>2</sub>の環境基準は1973年に1時間値の1日平均値が0.02ppm以下と定められた。しかし、大都市地域での0.02ppmの実現は自動車交通の大幅カットでもしなければ無理なため、1978年には「0.04 ppm から0.06 ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること」と大幅緩和された。

## ppm (parts per million)

ごく微量の物質の濃度の含有率を表すのに用いられ、%が百分の1をいうのに対しppmは百万分の1を意味する。たとえば、空気1m<sup>3</sup>中に1cm<sup>3</sup>の物質が含まれているような場合、あるいは水1kg(約1ℓ)中に1mgの物質が溶解しているような場合、この物質の濃度を1ppmという。

(文責一紺谷 友明)



れがナキウサギの英名であることがわかった。あの動物学者は、発音が同じパイカであることから、Pikaとpicaを思いちがひしたらしい。それでも私はこのミスプリントによって、カササギの学名も覚えるという副産物を得た。

ずっと後年になってから、私は佐賀市内でカササギの姿に接することができたが、Picaの一件があったので、この佐賀地方だけにしか分布しない天然記念物を、特別の感慨をもって眺めた。それに、このカシヤ、カシヤという喧しい鳴き声を聞いてみると、どこかタイプライターを打つ音にも似ている。ひよつとすると、タイプライターの活字のパイカも、カササギのPicaに由来するのではないかと、

勝手に想像したりもした。

今から十年ほど前の夏のある日、私はアメリカ西部のクレターレーク国立公園の一角で、国立公園レンジャーが指導する自然観察会に参加していた。アメリカの国立公園では観光客に対する自然保護教育が熱心に行われており、レンジャーが展望台で風景の解説をしたり、動物を観察しながら、散策を楽しむ小さなツアーが、随時に行われているのである。摩周湖に似た美しいクレターレーク湖を見下す外輪山を歩いていると、レンジャーが「静かに」と合図をするので、十数名の参加者一同が耳をすますと、岩場の間から、キチツ、キチツという小さな鳴き声がする。レンジャーが「何だか分りま



すか」と問いかけたが、アメリカ人は誰も答えられない。そこで私は「パイカ」と答えると、レンジャーも参加者一同もびっくりしたようである。

たまたま私はナキウサギの鳴き声と英名を知っていたので、答えただけなのであるが、それ以降、参加者一同は私をたいへんなナチュラリストだと、美しい誤解をしてくれたようで、私は大いに面映ゆい思いをした。

ナキウサギの英名くらいは、分らない時点で動物の専門家に聞けば、たちどころに教えてもらうことができただろう。しかし簡単に教えてもらったことは、またちどころに忘れてしまったかもしれない。私にとってナキウサギの英名を探しあてるまでには、いくつかの試行錯誤があった。しかしこうして頭に入ったことは、いつまでも忘れることがない。

試行錯誤もまた楽しいものである。

(専修大学北海道短期大学教授、札幌市在住)

# 高橋延清氏 森林の美学を論ず



高橋延清(北方林業会会長  
札幌市在住)

インタビューー八木健三(北星学園大学教授)

富良野の東大演習林を見事に育成した、東大名譽教授高橋延清氏の森づくりにかけた一生は実にドラマティックである。その輝かしい業績に対しては北海道新聞文化賞、朝日森林文化賞などがおこなわれているが、会報に新にインタビューを掲載することになったのを機会に、高橋さんのお宅を訪ね、森づくりの苦心談や自然観について伺った。

**八木** 先生は私と同年ですね。お生れはどちらですか。

**高橋** 大正三年岩手県の沢内村の生れです。日本のチベットですね。子供のころ夕暮おそく帰ったら、母から「ヨタカにさらわれるぞ」と叱られた、そんな田舎でした。黒沢尻(現在は北上市)の中学を出たあと、弘前高校を経て、東大農学部林学科に入りました。

昭和一三年に卒業、すぐ富良野の東大演習林に入って、それ以来四九年定年退職まで三六年間そこにいました。

**八木** 教授になられてからも、一度も本郷の教壇には立たれず、森林づくり一筋に努力されたと同いましたか。

**高橋** 大学ではドイツ流林学を習ったんですが、実際に演習林でやってみるとサツパリうまくゆかない。それでたいへん苦勞して自分なりに森林の育成法を考え出した。

森林には高い木、低い木、いろんな構成要素があり、さまざまな面積をもつ構造にわかれる。これを林分というのですが、この林分ごとに発展してゆく力をもっているのです。これに人力を加えて発展させるのです。成長極限一歩手前の木を伐ると、あとの木が段々育って、森林に活力がつく。こうやると、木材の生産量をあげると同時に、森林が育成されてゆくわけです。これが「林分施業法」で、それまで営林署がすすめていた皆伐法とは正反対のものです。

**八木** ドイツ流林学が失敗したのは何故でしょうか。

**高橋** 日本では森林にササがあることが、ドイツと根本的に違うところで、ドイツをはじめヨーロッパにはササがないから種が落ちると、すぐ幼木が生えてく

るが、日本では木を切るとササが生えて種が落ちて木が育たない。それで苦労したんですが。

研究をする前に文献を読むのが普通ですね。しかし私は論文は読まないで、森を相手に試験研究を積み重ね、ついに自分独自の「林分施業法」にたどりつき、この方法で演習林を美事に育成することができたのです。この演習林の生長量は周辺の森林の倍以上に及んでいます。いまはこの施業法が、それぞれの森林に適するように変形して、広く採用されています。

**八木** なるほど、こうして富良野のあの美事な樹海が育ったのですか。ところで先生の自然観のフィロソフィをおきかせ下さい。

**高橋** フィロソフィなんて大それたこともないが、私は、人間が自然とかかわり合って、森林を育てるのは美を創ることだと思えます。どの木もスクスク育って自然に調和し、安定感がある。これがまた自然保護につながってゆく。

私は林道はドンドンつける。演習林には六五〇キロ以上のトラック林道があるんだが、下から見て全然わからないですよ。この林道をつかい、よく管理して活力ある森林をつくる。これが美の創造なんだ。大規模伐採、崩壊のある林道、これは醜だよ。

**八木** と仰しゃると、自然はある程度手を加えた方がいい?

**高橋** いいえ、本当の原始林などは全く手をつけずそのまましておくことが必要です。しかし、大部分の天然林は多かれ少かれ人手が入っているのです。こうした森林はよく管理して、活力をつけて生育させるのが大切ですね。野幌原始林も実は全然原始林ではないんですが、管

理がうまくゆかないから、もともとは70%もあつた針葉樹が現在は30%になり、いまのままで二二世紀には針葉樹はなくなってしまう。成長の最高に達した木は切った方が、若木が育ちますね。自然保護の方々は木を切るなどいつているのが却って森林の破滅につながるようになる。

**八木** 成る程、森林の美学、自然保護の要点などがよくわかりました。ところで、先生が「どろ亀さん」と自称しているのは何故ですか。(笑)

**高橋** いや深い意味はないが、ササの中をゴソゴソ歩く、それもゆつくりとね。それにお酒が好きなんです。(笑)しかしこうと目的をきめたら、どろ亀さんは徹底的に追求しますよ。

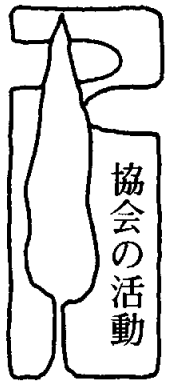
お酒の方は前は一日四回だったが、最近は医者忠告で、ひる、晩酌、寝酒の三回に節酒していますよ。(笑)

**八木** グリーンパワー連載の「どろ亀と森の仲間たち」はたいへん面白く読ませていただきました。

**高橋** あれは一年分を一気に書き上げたんですが、同じような随想をまとめて「森のメルヘン」を出そうと計画してらんです。データが沢山そろったら、かえって筆の運びが遅くなつて弱つてるんですよ。いま「猫とまたたび」を書きかけている所です。

**八木** その「森のメルヘン」を拝読するのを楽しみにしています。今日は貴重なお話まことにありがとうございました。

【あとがき】天衣無縫、あけひろげの明るいお人柄をそのままに、しかも森林づくりの苦心談は実に熟がこもって、実に感銘深いインタビューでした。



# 協会の活動

大名菅教授 「Botanical Problems and Memory」

○十月二十三日(日)

農試・林試見学会  
場所 羊ヶ丘・農水省農業試験場・林業試験場

講師 四十万谷吉郎・高畑 滋両氏  
参加者五十七名

○十月二十九日(土)

大規模林道「平取・えりも線」説明会  
(道庁主催)  
場所 石狩会館  
出席 八木会長、狩野常務理事、紺谷・滝口両理事、片岡事務局長

○十月一日(土)

懇談会Ⅱ自然保護についてⅡ  
場所 北大百年記念館

○十月三日

洞爺湖中島におけるエゾシカの森林対策会議(道庁主催)  
場所 道庁別館  
出席 八木会長、片岡事務局長

五十八年度第5回常務理事会  
主な議題

一、高山植物の盗掘の件

○十月十五日(土)

占冠村ニニウを考えるシンポジウム  
場所 占冠村ニニウ  
参加者十三名

○十月十九日(水)

コーナー博士講演会  
主催 日本植物学会北海道支部・日本植物病理学会北海道支部・環境科学談話会・当協会

場合 北大農学部会議室  
講演 コーナー博士(ケンブリッジ)

○十一月十四日(月)

洞爺湖中島におけるエゾシカの森林対策会議(道庁主催)  
場所 道庁別館  
出席 八木会長、片岡事務局長

○十一月二十日(水)

五十八年度第六回常務理事会  
主な議題

一、昭、五十八年度財務見通しの件  
二、昭、五十九年度事業計画の件

○十二月三日(土)

道知事との対談  
場所 知事公館  
出席 佐々木栄松氏、八木会長(対談) 辻井達一氏(司会)

道知事との懇談  
場所 知事公館  
出席 八木会長、新妻副会長、斉藤・狩野両常務理事、佐々木栄松氏、片岡事務局長

(会場記載のないものは事務所にて実施)

## LOOK IN 一九八一年九月十七日

### 加藤幸子さんの講演を聞いて!

小島 圭子



加藤さんは、ご自分のお子様を自然環境を通して教育し、自然にふれあいさせたいとお考えになり、手近な大井埠頭の東京都の埋め立て地を、ホームグランドにして、子供達を集めて、野鳥や植物などの自然観察もずっと数年続けられて来たそうです。

ところが、そこが東京都の中央卸売市場の予定地であったために、つぶされそうになり、なんとかこのまま野鳥公園として、残していただけないものかと思ひ、観察会の子供達の父兄にもよびかけたり、学校のPTAの方々にも、加わっていただき、運動に立ち上ったそうです。都庁や議員さんなどへ、あきらめずに数年間にわたり陳情をくりかえし、署名運動まで街頭に立つてなされ、六万名程の署名迄集められたそうです。

そうこうしているうちに、その埋め立て地にも草がはえ、植林もされるようになり、緑も多くなり、公園として残したら、と一般の人々の関心も高まり、講演

に来られる少し前に、野鳥公園として約二六ヘクタールと、水辺を正式に認可されたそうです。私は、そのお話を伺っていて、加藤さんの御喜びが、どんなにか大きいものであるか、よくわかる気がいたしました。

私たちは今からだいぶ昔、東京の郊外に建売住宅を買って入ったのですが、泥炭地のため水質が悪く茶色の井戸水しか出てこない所で、御飯を炊いても洗濯しても、皆薄茶色になってしまいました。それで、ほとほと困り、御近所の方々四・五軒で趣意書を作って、水道本管を引いていただく運動をしました。

やはり都や区役所、区・都の議員さんの所へ陳情したり、二三百軒位の署名を集め約三年間寝食を忘れて運動した結果、やっと我家に水道が入り、この時ほど嬉しかった事はありません。一緒に運動した御近所の方々とは、親戚以上のお付き合いとなりました。

加藤さんの今のお気持は、私があの時味わった喜びと同じであろうと、心から感ずるしだいです。

これからも私達、自然保護の立場に立つて、素晴らしい自然環境を少しでも多く、のちのちの子孫に残して行かなければならないと痛感するしだいです。

自然保護を考えられる方々にとっても、大変有意義な講演でございました。

(主婦、札幌市在住)

# 大塚 武さんを悼む

八木健三



一九七四年以来十年間にわたって監査役として、協会の発展に貢献された北洋相互銀行会長、大塚武さんが、さる八月末日高の神威岳に登山中、遭難し逝去された。

当時カナダで開催中の国際学会に出席していた私は、九月九日帰札してこの悲報を聞き、わが耳の誤りかとばかり驚いた「あの永年の山のベテランにそんな遭難をぞあるわけがない」と思ってはみたものの、告別式はすでにその前日と行なわれたと伺い、私は心から黙禱を捧げるのみであった。

毎年総会に先立って、私たちは北洋相互に大塚さんをお訪ねして、協会の会計監査をしていただいた。あらかじめおとどけしあった書類を秘書役が詳しく検討されたデータに基づいて、大塚さんは大所から種々適切をご助言を下された。とくに法人となつてからの協会の進路にとつて有難いことだった。

監査が終わると山や画についてのお話が楽しみだった。既に一家の風をなしていた大塚さんの画は、重厚のタッチのうちに暖かさが感じられ、とくにヒマラヤのトレッキングの印象を描かれたものに私は強く惹かれた。「いつか一緒にいってみたいですね」と申しただけであつた。

大塚さんはまた立派な画のコレクションを銀行に掲げておられたが、その一つに桑原宏氏の「トドマツの林」の大作がある。すくす

くとのびたトドマツ林にはのきな木洩れ陽がさしこみ下草が光っている画だ。「この画をね、坂本直行さんが見て「これは然別湖畔だろう」とすぐ当てたよ。やっぱりすごい眼力だね」と大塚さんは感心していた。その直行さんも大塚さんともいままはない。

大塚さんと最後にお会ひしたのは、五月の末「加藤氏エヴェレスト登頂遺稿フィルム」を道新ホールで一緒に観賞したときだった。この超人登山家の映画を見ながら、大塚さんは「どうも人間には運と不運がついているようですね。私なんか何度が危い目にあつてゐるのに助かつたのに、友人には遭難したのにもしてネ。だから北洋相互の就職試験のときにも、『運がついている』と思つている学生を採用するように……』と人事係に言つたこともありましたよ……』と言つて笑われた。

その強運の大塚さんが日高で遭難して逝去されようとは、せめてものなぐさめは、その遺品のカメラに収められたフィルムが、神威岳山頂で微笑む大塚さんご自身の像をとらえてここにこゝろであつた。ここに協会に対する大塚さんの多年のご貢献に感謝するとともに、大塚さんの御霊の安からんことを祈る次第である。

(本協会会長)

## お知らせコーナー

### ★会費値上げのお願い

会費は、昭和五十三年度以来据置かれておりましたが、第九十回理事会で昭和五十九年度からの会費が、次のようになりました。昭和五十九年度通常総会を経て施行されますが、会員皆様のご協力をお願いします。

- 個人会員 (A) 年額三、〇〇〇円
- (B) 年額二、〇〇〇円
- 学生会員 年額二、〇〇〇円

### ★会費の自動納入制度ご利用へのお願い

会員皆様の銀行口座(拓銀・道銀のみ)から、毎年、自動的に会費を納入していただく制度です。会費振込に要する費用は協会が負担いたしますので、事務簡素化のために、ぜひご利用をお願いします。事務局へご連絡下されば、用紙をお送りします。数がまとまりませんと制度を利用できませんので、ぜひご協力をお願いします。

### ★自然観察指導員研修会

すでに自然観察指導員となられた方、近々、指導員となられる方のための研修会です。雪上自然観察会の実際について研修します。

- 主催 北海道自然観察指導員連絡協議会
- (財) 日本自然保護協会
- (社) 北海道自然保護協会
- 期日 三月十七日・十八日(二泊二日)

場所 北海道ニセコ町ふじやま  
講師 工藤父母道(財・日本自然保護協会主任研究員) 外二名  
募集人員 四十名(先着順)  
締め切り 二月二十八日  
参加費用 一三、〇〇〇円(主催会員は一〇、〇〇〇円)  
貸スキー代 二、〇〇〇円

申込方法 返信用ハガキ同封の上、住所氏名、性別、電話、貸スキーの有無(スキー・クツのサイズ)、主催所属会員名を記入してお申し込み下さい。

申込先・問合せ先は当協会へ。  
――編集後記――  
厳寒の候、会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

会報がこの一月より、内容も新たにお目見えする事となりました。会員の方々の自然保護に関するご意見や主張など、出来る限り網羅して行きたいと考えておりますので、今後共、ご協力のほどよろしくお願ひ致します。又、会報の内容等への注文などもお寄せ下さい。編集人一同

昭和五十九年一月二十五日発行  
〇六〇 札幌市中央区北一条西七丁目 広井ビル五階

発行所 財団法人北海道自然保護協会  
電話(〇一一)二六二六(五六代)  
(〇一一)二五二五(四六五直)  
郵便振替口座小樽 一四四〇五五  
北海道拓殖銀行本店 〇二七五九  
北海道銀行本店 一〇一四四四  
発行人 八 木 健 三  
印刷 特急印刷株式会社